新日本保険新聞 (第三種郵便物認可)

日本代協 地域貢献活動リポート〈21〉

岩手代協　高校への出前授業

高校3年生の後半になると、自動車学校に通う生徒が増える。運転免許の取得できる年齢になることもあるが、高校卒業前に運転免許を取得しておこうと思うのだろう。卒業後すぐに就職するのであれば運転免許はほぼ必須となる。授業の前に、自動車学校に通っている人を問うと職業高校では30%ぐらいの生徒が挙手をする。

自動車学校では、交通ルールや安全運転の注意点、標識の見方や自動車の運転技術などを教わるが、交通事故の現場で自分が当事者になった場合の対処方法や事故発生後の責任についてはあまり教わらないようだ。運転免許を取得しようとしているこの時期に、事故現場に立ち会う機会が多く、その後の賠償問題にもかかわっている代理店が、その経験を踏まえて行う授業は有意義であろう。

岩手県代協は、地球環境・社会貢献委員会と教育委員会が中心に高校3年生を対象にした約1時間の出前授業を行っている。平成23年度から始めたこの授業は、毎年3、4校の申し込みがあり、今は岩手県代協の定着した活動となっている。

授業は、スライドを使用して行う。事故が起きやすい場所や時間帯、事故現場ですぐにしなければならない幾つかの事を解説し、負傷者が出た場合はまず救護が第一であることを強く訴える。事故が発生すると同時に負わなければならない民事責任や刑事責任、行政上の責任や人道上の責任などを解説し、それらの責任に対して保険の果たす役割や保険の仕組みなどを説明する。

事故を起こした時は、一瞬に日常とはまったく違う環境に置かれ、誰でも混乱する。これから起こすかもしれない交通事故の疑似体験を通して、多くの疑問を一緒に考え、少しでも落ち着いて対処することができるようにと語りかける。衝突現場の車を動かしてよいのか悪いのか。警察に連絡すると罰金が科せられるのか。免許の点数が加算されるのか。そんな質問にも答えていく。最後に、死亡事故などで被害者はもちろん加害者も将来の人生が大きく狂った具体事例を話して終わる。

「車社会に出る、高校生の君たちへ」
23年度から毎年3、4校の申し込み

授業後にアンケート用紙を配布、後日、学校を通じて回収している。多くは好意的な反応だが、『この授業を受けても、自分は飲酒運転をすると思いますか』との問いに、どこの会場でも10%程度の生徒が、「するかもしれない」との回答がある。まだ実感がないのだろうが、もう少し授業の内容に工夫が必要なのかもしれない。

さらに授業高校を増やし、授業も充実したものにと努めている。

（執筆者　舘洞直人常務理事・広報委員長　大平騰一常務理事・教育委員長）

県立盛岡工業高校での講義

県立久慈高校で講義する大平常務理事・教育委員長

県立花泉高校での講義

盛岡大学付属高校での講義

島根県代協　東中国ブロックでクリーン作戦

一般社団法人島根県損害保険代理業協会は、県内に四支部で正会員59店、賛助会員11店で組織している全国最小の組織である。支部活動として、通年各支部は、地球環境・社会貢献活動・セミナーを行うこととしている。松江支部は毎年6月に行われる「中海・宍道湖一斉清掃」活動に参加者7700人の市民や、企業と一緒に参加、ラムサール条約の目的に沿って活動している。

また、毎年恒例のボウリング大会を開催し、損保会社社員、会員家族含めて約50名が普段であれば会うこともない人々が、一緒になってプレーを楽しみ、また、懇親会で一層親睦を深めている。

出雲支部は、10月は全国では神無月だが、島根県だけは全国の神々が出雲大社に集合され翌年の「万事の縁」を決められる月「神在り月」に、神迎え神事の場所である稲佐の浜の清掃活動や、出雲ドーム付近での市民一斉清掃活動に参加している。昨年から松江支部と同様に、保険会社社員とのボウリング大会を開催し、代申会社を超えて親睦を深めている。

浜田支部は毎年7月に石見地区「国府海岸清掃」に一般市民と一緒に会員が参加し、海水浴客が楽しめるよう汗を流した。益田支部は毎年7月の海浜清掃活動「レッツ里再来」に会員をはじめ従業員、家族が参加して島根県代協をPRしている。

この他、支部毎に春または秋の交通安全期間に警察署交通課長による交通安全講習会、消防署の救急救命講習を共通事業としているが、毎回同じメンバーに偏りがちであり、参加率の向上が課題となっている。

県全体での活動としては、4年前から東中国ブロック協議会が主催する鳥取県、岡山県を含む三県合同のクリーン作戦を島根県で開催したことである。場所は安来市広瀬町にある月山富田城と周辺公園だ。安来市観光協会からの要請もあって、5年に一度、9月下旬に開催される「尼子まつり」に併せ周辺の清掃ボランティアとしてクリーン作戦を開催した。

安来市で清掃ボランティア
各支部でも地元で活動

当日は、注意報が出る悪天候の中、観光バスやマイカーで93名の会員・家族が集合。観光協会・市役所職員が見守る中、CSR委員を先頭に各コースに分かれ約1時間半で清掃作業を完了。隣接の公営温泉保養施設で汗を流し、大広間で昼食を摂り、来年の行事参加を約束し解散した。

また、毎年行われる島根県暴力追放センター主催の「暴力追放・銃器根絶島根県民大会」への寄付と代表者の参加を続けている。

その他「犯罪の被害者を支援する益田・鹿足地区ネットワーク」の損保関係会員として、毎年開催される連絡協議会への参加および講演会等に保険代理業者としての講師派遣も行い、犯罪被害者が少しでも減るよう啓蒙活動に参加している。

冒頭申し上げたが、島根県代協は小さな集団であるが、全会員とも活気にあふれている。これからも出来る限りの活動を神々のふるさと島根県から発信して参りたい。

（執筆者　古田良二会長）

悪天候の中、会員や家族が清掃活動

観光バスやマイカーで現地に集合